

## 「林業とぼくたちの森」

ぼくの生まれた所は京丹後市の大宮町です。大宮町には森がたくさんあります。ぼくは大宮町の森が好きです。森は毎年、服を変えるように、様々な顔を見せます。

春は梅や桜で淡いピンク色に染まります。夏は、一面真緑になり、秋は燃えるような紅葉が広がります。そして、冬には雪をかぶった森が真っ白な世界を作ります。森は毎年、これを繰り返しています。このような森の変化を見ることで、季節の移り変わりを感じることができず。だから、ぼくは森が大好きです。

また、ぼくは、森の姿だけでなく、森に住むたくさん動物達も好きです。農家の人たちは、作物を食べられるので、動物とは悪い関係ですが、ぼくは、そこまで悪い事とは思いません。なぜなら、動物が多いという事は、自然が豊かな証拠だからです。ぼくは、この大好きな大宮町の森と、そこに住む動物達がずっと残って欲しいと思っています。そして、ぼく自身も森を守っていかねばならないと思っています。

五年生の時に、森や林業について勉強しました。森を守るには、木を植えるだけでなく、切ることも必要であり、木が育つには、人と同じくらいか、それ以上の時間がかかるという事も知りました。ぼくは、

林業とは、一生かけて行うものであり、根気と情熱がいる仕事だと思  
います。実際に林業をされている三重の永濱さんにお話を聞く機会が  
ありました。大きなヒノキや杉などを育てておられ、ヒノキは柱に、  
杉は板などに使われていると教えていただきました。

ぼくたちの学校の前にある「文化の森」の木は京都の知恩院という  
八百年程前からある古いお寺の修理に使われるほど質のよいひの木が  
育てられていることも聞いてびっくりしました。長い間かかって育て  
られてきた木が活かされていることを学びました。

また、最初は林道って何だろうと思っていましたが、育てた木を運  
ぶ道で、通学など生活用の道としても使われていると聞いて、生活の  
中に林道はあることがわかりました。

永濱さんは、林業を盛んにすることと、山を守ることが目標で、人  
々の生活の中に山が息づくことを願っておられます。森が人の生活に  
役立ち、人が森を支える。この関係を大切にすることが、ぼくの大好  
きな森を守ることに繋がります。今日ここに、開通する奥寄線が、森  
と人をつなぐ懸け橋になるよう、ぼくたちが大切にしていきたいです。

平成二十三年 四月二十一日

京丹後市立大宮第三小学校

六年 江上 昌希

